

◆客車塗色・標記一覧表

○在来形客車の塗色・標記は非常に複雑な変遷を辿っていますので、年代ごとの主な変化を表にまとめました。

(発売中の『往年の客車列車編成表』P62上の表に着色、一部を変更・加筆)

詳細については、『往年の客車列車編成表』P63・64『客車の塗色・標記の変遷について』をご覧ください。

※着色部の色は概ねのイメージで、正確な色調ではありません。

[一般的な塗色の車輛]

	車体色	等級帯 (文字の色は帯の標記色)				標記
		イテ・イネ等	ロネ	ロ	ハネ・ハ	
明治43年(1910)9月30日～	黒 ※1	白	青4号 ※2	赤	寝台車・食堂車には窓下に英文と漢字の標記あり 等級標記その他の詳細はP63参照	
昭和3年(1928)10月1日～	黒 ※1	白	青4号	赤	客車の形式を改番(オハ44400→オハ32000など)	
昭和4年(1929)3月11日～	ぶどう色1号	白	青4号	赤	窓下にⅠ・Ⅱ・Ⅲ、車掌あり	
昭和15年(1940)2月11日～	ぶどう色1号	白	青4号	なし		
昭和16年(1941)10月1日～	ぶどう色1号	白	青4号	なし	鋼製客車の形式を2桁に改番(オハ32000→オハ31など)	
昭和23年(1948)6月26日～	ぶどう色1号	クリーム2号	青4号	なし	一等車には「J.G.R.」の標記あり	
昭和24年(1949)6月1日～	ぶどう色1号	クリーム2号	青1号	なし	一等車の「J.G.R.」標記を「J.N.R.」に変更	
昭和24年(1949)頃～	ぶどう色1号	クリーム2号	青1号	なし	郵政省所有の郵便車には、片側2ヶ所の窓に赤色の「〒」マークを大きく記入(一部は片側1ヶ所)	
昭和25年(1950)10月12日～ (実際は数年前から)	ぶどう色1号	クリーム2号	青1号	なし	所属標記は形式標記の左側に、上下2段に配置	
昭和27年(1952)1月5日～	ぶどう色1号	クリーム2号	青1号	なし	一等車の「J.N.R.」標記を「Ⅰ」に変更	
昭和27年(1952)8月20日～	ぶどう色1号	クリーム2号	青1号	なし	形式標記は1段、その上に所属標記を1段で標記	
昭和28年(1953)6月1日～	ぶどう色1号	クリーム2号	青1号	なし	3軸ボギー車を中心に、形式を改番(マロネ37→マロネ29など)	
昭和30年(1955)7月1日～	ぶどう色1号	クリーム2号	青1号	なし	旧一等寝台車はロネ格下げ、等級帯を青1号化	
昭和34年(1959)7月1日～	ぶどう色2号	クリーム2号 (規定では白)	青1号	なし	窓下の等級標記(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)、車掌の標記廃止 等級表示灯のない2等車(ロネ・ロ)の扉横に、白で「2」の標記	
昭和35年(1960)7月1日～	ぶどう色2号	——	青1号	なし	2等級制化、旧2等車(ロネ・ロ)扉横標記は、白の「1」に 旧一等車は形式変更、等級帯を青1号化	
昭和36年(1961)7月29日～	ぶどう色2号	——	淡緑6号	なし	「寝台」標記は青15号の文字に変更	
昭和39年(1964)9月26日～	ぶどう色2号 一部車輛は青15号	——	淡緑6号	なし	一部形式(P64参照)は車体色を青15号化	
昭和44年(1969)5月10日～	ぶどう色2号 一部車輛は青15号	——	淡緑6号	なし	グリーン車(ロ)の扉横にグリーン車マークを標記 A寝台車(ロネ)の「寝台」標記は「A寝台」に	
昭和44年(1969)9月20日～	ぶどう色2号 一部車輛は青15号	——	なし	淡緑6号	ロネの等級帯廃止、その「寝台」標記は白文字に変更	
昭和53年(1978)10月1日～	ぶどう色2号 一部車輛は青15号	——	なし	なし	グリーン車(ロ)の等級帯を廃止(数年後まで残存)	

※1……大正期には主に漆、ペンキを使用。(食堂車は漆、郵便車・荷物車はペンキ) 大正15年(1926)頃からはラッカーも採用。

塗料の種類により仕上がりが異なると思われるほか、漆は経年で赤みが増していく傾向にあったようです。(出典……『オハ31形の一族 下巻』車輿史編さん会 P87)

※2……国鉄で「何色何号」といった色の名称が付与されたのは昭和31年なので、戦前の二等車帯が青4号と言われているのは、近似色の可能性もあります。

●模型の標記インレタについて

「K3073 等級標記・スニ41他インレタ(黒)」……白帯・クリーム帯の黒文字に使用。(昭和36年以降のロネの青文字の代用としても使用)

「K3065 等級標記他インレタ(白)」……青帯・赤帯・帯なしの白文字に使用。昭和34・35年以降の扉横の「1」「2」標記も収録。



発売元
アルモデル